

年間展示

テーマ

日本ってどんな国？

2019年

	しよめい	ちよしゃ	しゅっぱんしゃ	しゅっぱんねん	せいきゆうきごう	ないよう
1・2年生	おとうふやさん	飯野 まき // 著	福音館書店	2015	エホン/イ	みっちゃんは、おとうふやさんのみせさきで、おおきなおけをみつけます。なかには、みずにつかっただいずがいっぱい！おとうふやさんは、これでおとうふやあつあげができるというので、みっちゃんはおとうふづくりをけんがくさせてもらうことになりました。かたいたいずは、いったいどうやっておとうふになるのでしょうか？
	オオサンショウウオ	福田 幸広 // 写真	そうえん社	2014	487	オオサンショウウオは、山のおくの川の中にすんでいます。いつもは川でのんびりくらしていますが、なつになるとたびにでます。けっこんして、すあなであかちゃんをそだてるためです。おかあさんオオサンショウウオがたまごをうむと、おとうさんオオサンショウウオはひとりですあなにのこり、たまごをまもります。
	しんかんせんいま・むかし	持田 昭俊 // 著	小峰書店	2015	546	にほんじゅうをはしるでんしゃのなかでも、とてもはやく、おきやくさんであつというまにとおくにはこぶしんかんせん。しんかんせんはつぎつぎあたらしいかたがでて、さらにはやくもつつかいてきに、どんどんしんかしています。このほんで、しんかんせんができたころからいまのしんかんせんまで、れきしをたどってみよう！
3・4年生	かちかち山	広松 由希子 // ぶん	岩崎書店	2010	エホン/ア	いまはむかし。あるところに、おじいさんとおばあさんがくらしていました。おじいさんが、はたけでまめをまいてると、いたずら好きのたぬきがじゃまをします。次の日、おじいさんはとりもちをしかけ、たぬきをつかまえました。たぬきじるにはされたくない、山へ帰ろうとたぬきは、おばあさんにてつだいをもうしてました。
	図解絵本 東京スカイツリー	モリナガ ヨウ // 作・絵	ポプラ社	2012	526	2012年に東京スカイツリーは出来ました。東京スカイツリーはただの観光名所ではありません。テレビやラジオなどの電波を送信する電波とうでもあります。当時は世界一の高さの電波塔でした。このような高いタワーをどうやって作ったのか。また、工事現場で働いた人たちの仕事の様子などが詳しく書かれています。
	親子で楽しむこども俳句塾	大高 翔 // 著	明治書院	2010	911	俳句ってなに？俳句は、五・七・五の十七音で表す「世界で最も短い詩」といわれているよ。海外でも「HAIKU（はいく）」と、そのままの発音なんだって。少ない言葉で詩を作るのはむずかしそうだけど、季節は「季語」、気持ちは「切れ字」を使うと短く書き表せるよ。この本で俳句の決まりを知って、あなただけの一句をよんでみよう。

5・6年生	回文で遊ぼう きしゃのやしき	間部 香代 // 著	あかね書房	2018	807	みなさんは回文を知っていますか。回文とは、上から読んでも下から読んでも同じになる文章や言葉です。「たいやきやいた」「しんぶんし」など。この本では新聞記者の「おけたにたけお」さんが、みなさんを回文ワールドに案内してくれます。この本のタイトルも回文になっていますね。あなたも回文を作ってみませんか。
	落語少年サダキチ	田中 啓文 // 著	福音館書店	2016	9-0/夕	清海忠志は勉強もスポーツもイマイチな小学五年生。変顔の「爆裂フェイス」が得意技だ。ある日、酔っぱらいの老人を救ったお礼に「平林」という落語を聞かされ、ハマってしまう。「平林」のレコードを聴きこみ、クラスのお楽しみ会で披露すると、大成功。その後、定吉という名で学年全員の前で落語を披露することに…。
中学生	和算って、なあに？	小寺 裕 // 著	少年写真新聞社	2015	419	江戸時代には、私たちが現在学んでいる算数や数学とはちょっと違う算術がありました。それを「和算」といいます。この本では算数・数学の歴史に触れてから、和算についてわかりやすく書かれています。日本人は昔から数字で遊ぶのが好きだったようで、『万葉集』に「八十一」と書いて「くく」と読んでいる歌が載っています。
	すし食いねえ	吉橋 通夫 // 著	講談社	2015	913/ヨシ	これは江戸時代の物語。十二歳の豆吉は、父親のすし屋の屋台を手伝っています。ある日、豆吉のすし屋に若侍がやってきました。若侍は二人の侍に追われていて、あやうく斬られそうになります。それを止めたのはおきょうという娘。若侍は故郷を守るために江戸に来たと話します。豆吉とおきょうは、若侍を助けることにしました。